

浜松倉庫 DX戦略について

2022年6月

浜松倉庫株式会社



現在、急激に変化する社会情勢と情報処理技術の発展及び今後訪れる生産人口の減少に加え、2020年から続いているCOVID-19の流行では、さまざまな分野でデジタルによる革新が急激に進み、物流業界に対する社会のニーズは益々多様化の様相を呈しております。当社においても従来の方式を変えていかなければならない、大きなターニングポイントとなっております。

そこで、浜松倉庫では今回「中長期経営計画」と「浜松倉庫DX戦略」を打ち出しました。「正確に 迅速に 親切に」を社訓とし、地域とともに誠実に堅実に歩む企業として、変えないところはしっかり守りつつ、商慣習に捉われずに新たな取り組みにチャレンジしてまいります。

特にDXに関しては、AI・ロボットなどを積極的に導入し、デジタルイノベーションを積極的に活用することで、業務効率化・生産性向上はもちろんのこと、新規分野への参入なども実現します。

これにより、お客様に対して持続可能で豊かな社会を実現させる物流サービスを提供するべく社を上げて取り組んでまいります。

次第

1. 経営ビジョン
2. 浜松倉庫DX戦略
 - ①ロボット
 - ②AI
 - ③BIツール
 - ④新チャレンジ
 - ⑤新倉庫
3. 社内推進体制
4. 成果指標

2022-2037 中長期経営計画より

中期計画：基本方針（Road to 120）



1 収益力の強化

- ・医療機器分野における新規荷主獲得による収益増
- ・既存荷主を深耕し物流業務の見直しによる収益増
- ・料金適正化による収益増

2 高付加価値サービスの提供

- ・デジタル化の推進
- ・A I 技術／R P A の活用
- ・協働ロボットの導入

3 経営基盤の強化

- ・従業員教育の高度化による人材育成の実施
- ・デジタル化、A I ・ロボット活用による業務効率化
- ・リスクマネジメントとB C P



2. 浜松倉庫DX戦略イメージ

課題

人材不足（人員確保）

競争力（競合他社との差別化）

業務標準化（業務手順・データ・マテハン）

DX
戦略



成果

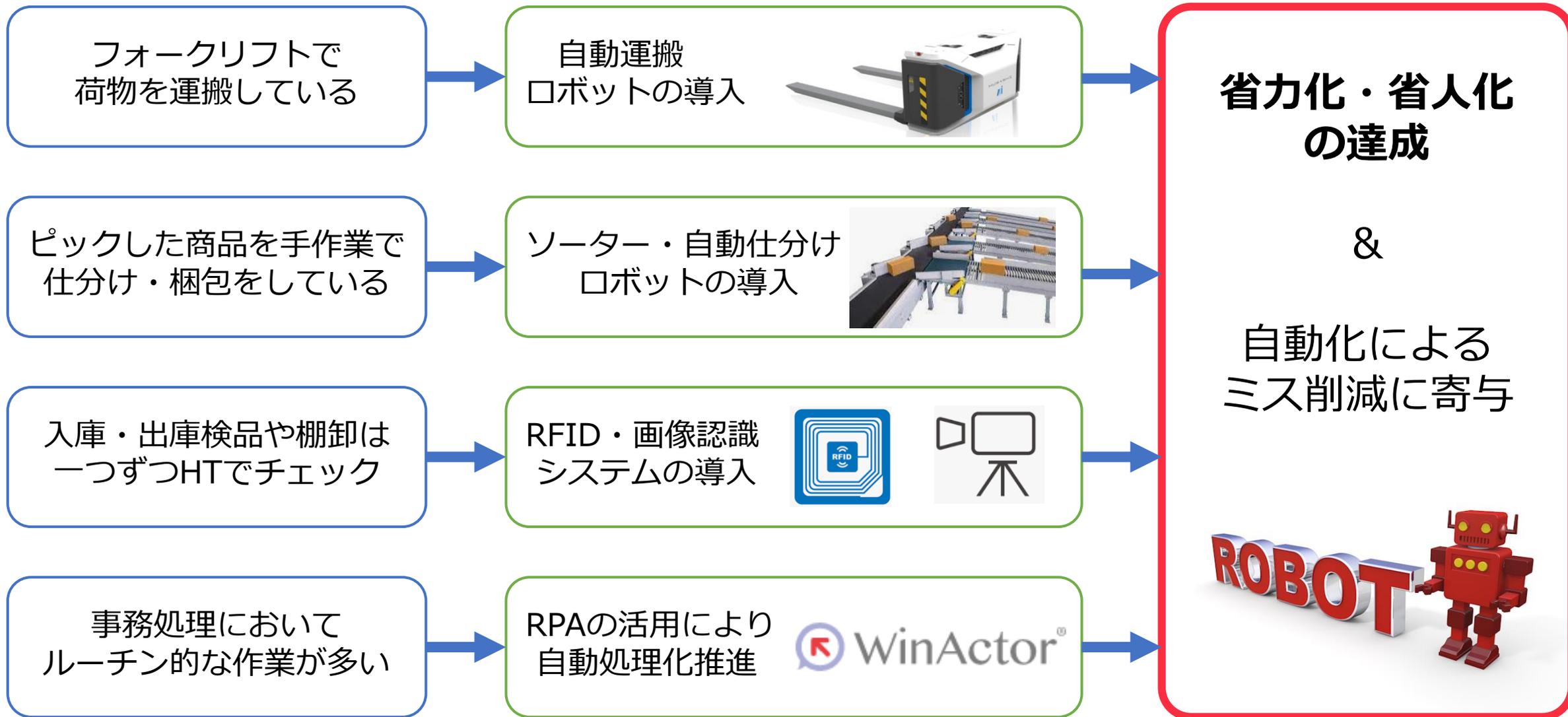
省力化・省人化の実現

ステークホルダとの協業体制

新分野（医療等）への参画

生産性向上の実現により **営業利益率 4.5%向上** ⇒ 中期経営計画の目標達成へ

2-①. 浜松倉庫DX戦略-ロボット





WMSにより蓄積される膨大なデータ

- ・ 入出荷データ (数量・個口など)
- ・ 作業データ (HT操作ログなど)
- ・ 寄託者・出荷先データ
- ・ 請求情報

... etc.

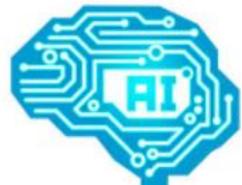


AI・BIツールによる各種分析

BIツールによる現状の分析
各種データの見える化の実現
ルーチン分析はRPAによる自動化

↓

AIによる未来予測 (傾向分析)
予測による戦略立案の実現



業務波動の予測

寄託者単位での業務波動を予測することで、より効率的な人工計画と収支計画を実現する

営業所単位の 管理会計化

営業所単位で収支状況の見える化を実現し、収益率向上につなげる

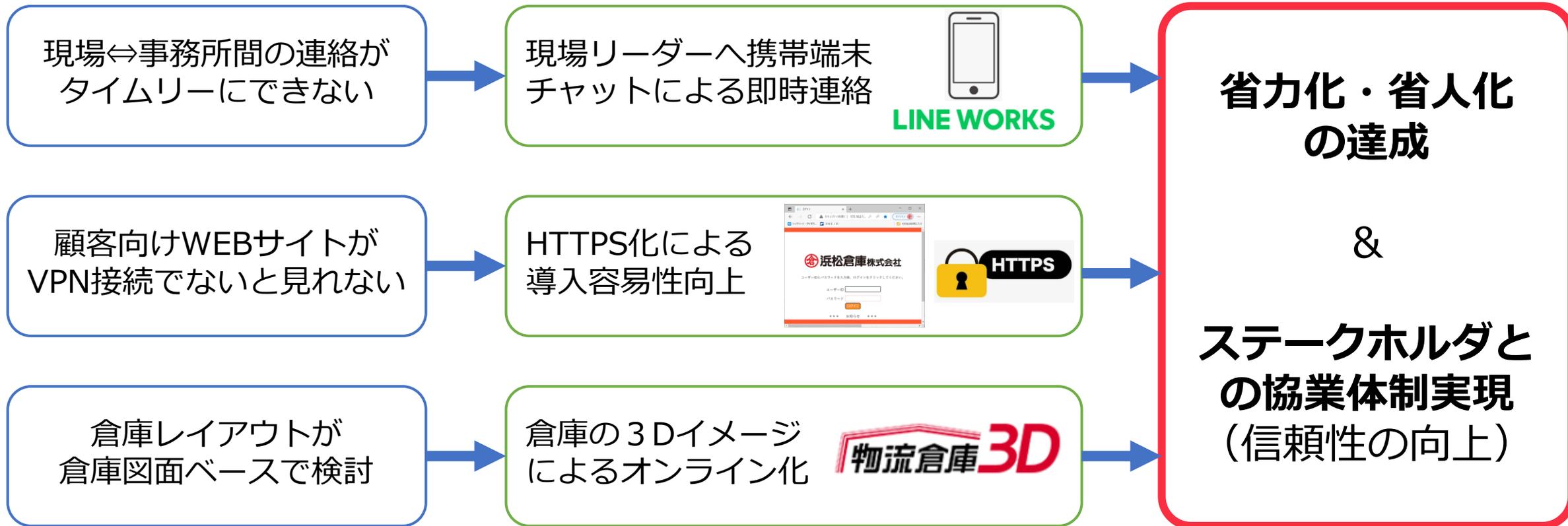
業務分析による カイゼン実現

商品ABC分をはじめとするデータを分析により現場生産性を向上

ステークホルダ とのパートナー

分析レポートを共有し、委託先から物流パートナーへ生まれ変わる

2-④. 浜松倉庫DX戦略-新チャレンジ



もちろん、対面・WEB会議を活用することで
従来以上に**Face To Face**のお付き合いは大切にする



2-⑤. 浜松倉庫DX戦略-新倉庫

前述の集大成として都田流通センター内に新倉庫を建設

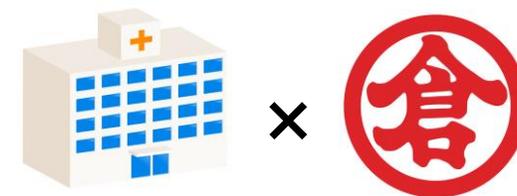


+

ISO13485の取得 (都田流通センター)
※医療機器-品質マネジメントシステム

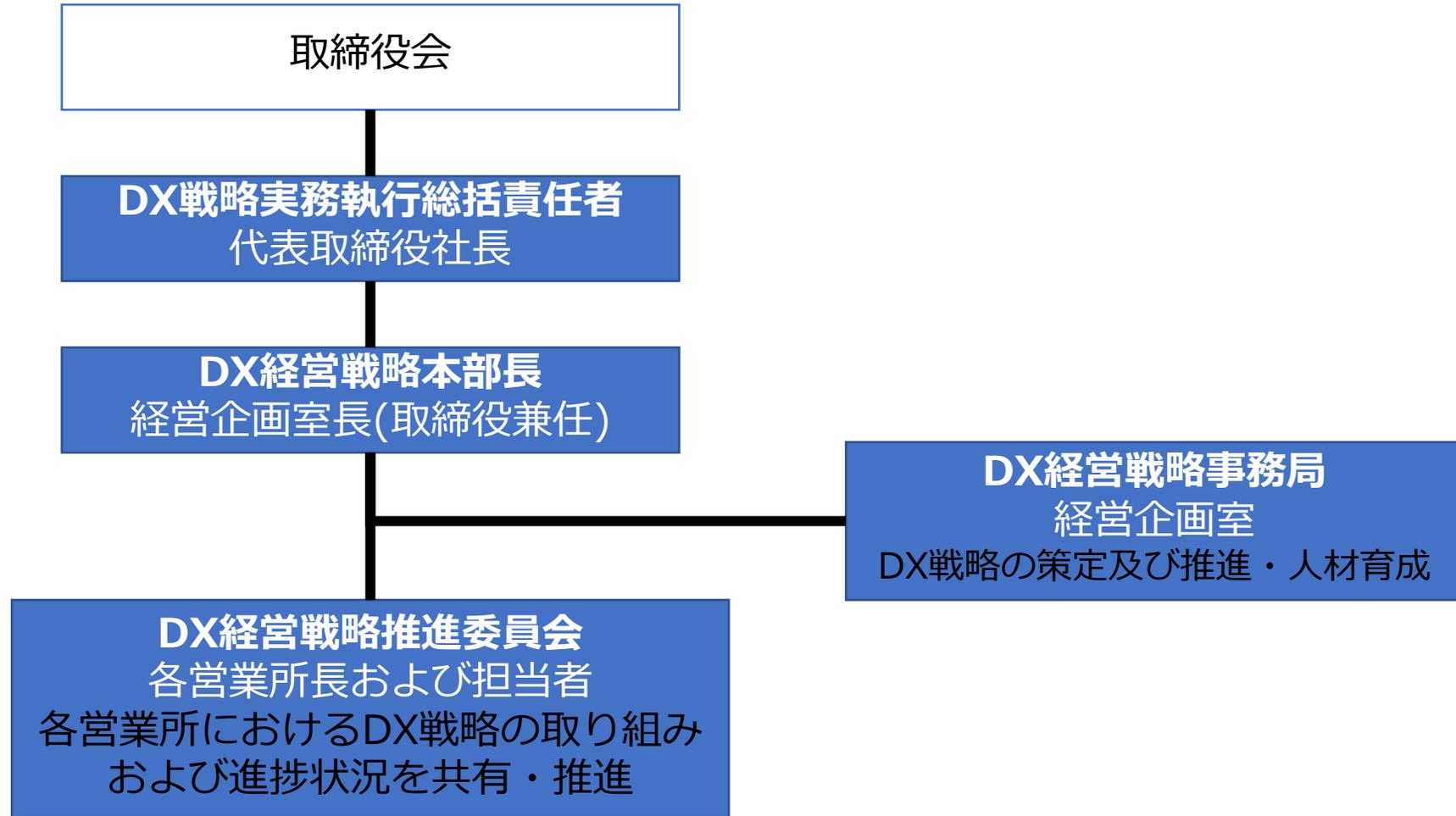


新分野 (医療等)
への参画



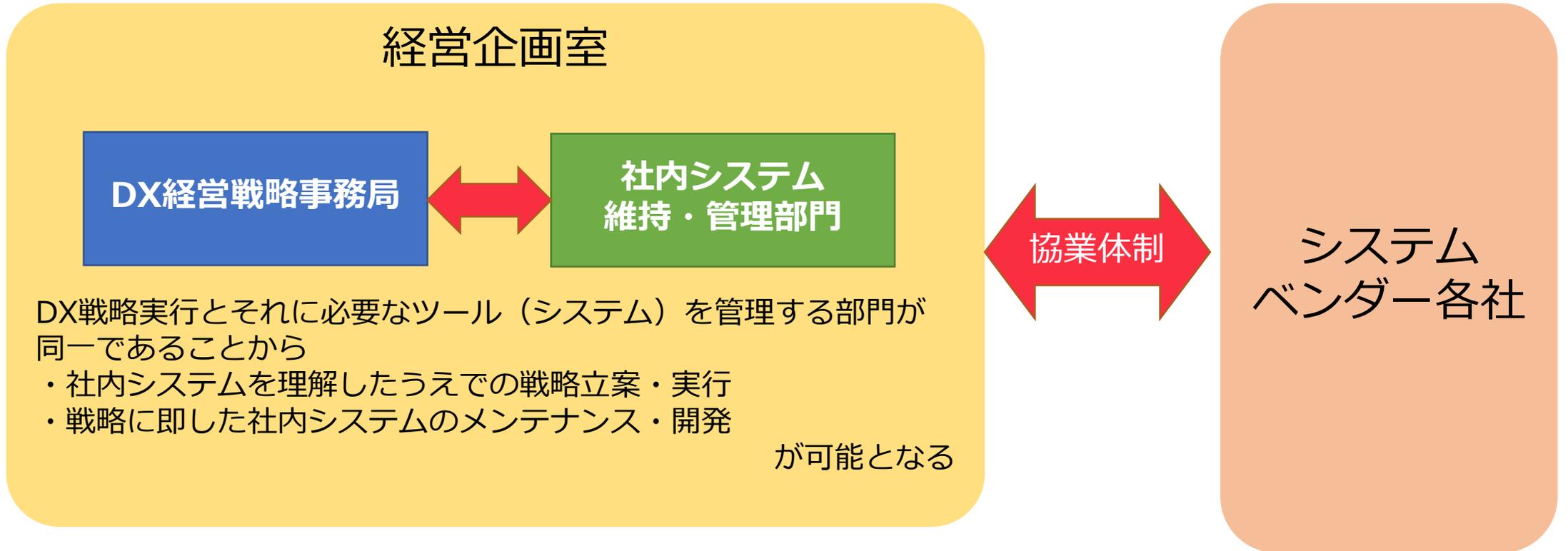
3. 社内体制

代表取締役社長をDX戦略実務執行総括責任者として配置
DX経営戦略本部長がDX戦略の策定およびDX人材育成のフォローアップなど、DX戦略を推進
各営業所におけるDX推進を図る目的でDX推進委員会を設置



3. 社内体制

- DX経営戦略事務局である経営企画室が、社内システムの維持・管理を担当
→戦略実現におけるシステムとのシームレスな連携を実現する
- WMSの開発・運用を行っているベンダーとも協業体制を構築
→より効果的かつスピーディーなシステム開発を実現する



4. 成果指標

売上成果については、中期経営計画の数値目標に連動するものとします

浜松倉庫DX戦略の大半は新たなシステム開発や新たな価値創造であるため、新規開発システムや新たなサービスを開発・展開し、取引先様など外部の皆様と繋がりをもつ機会の創出を持って成果とします。

個別のシステムや新規サービスの開発状況については、月次反省会・目標会議で総括することによって、経営レベルと一体となったDX実装を推進していくと共に、WEBによる発表等によってDX推進状況をステークホルダーへ開示していきます。

